

☆セルフジャッジについて☆

テニスは対戦相手がいて初めて成り立つスポーツです。相手のナイスショットはGOODと認め、お互いに気持ちよくプレイしたいものです。テニスでは、近年セルフジャッジが主流となっています。自分のボールの判定を相手が、相手のボールの判定を自分がするというようなスポーツは他には見られないのではないのでしょうか。審判は、普通中立の立場の者がするのが公平であり、当たり前です。なぜなら、選手は試合に出れば、相手よりは自分に有利になる判定になってほしいと、勝ちたいがために思っているからです。でも、テニスは多くの試合がセルフジャッジで行われています。テニスというスポーツを成り立たせるためにも、必要になってくるのが選手のスポーツマンシップです。選手は自分の試合でありながら、ジャッジは冷静かつ公平に行えなければいけないのです。

以下、セルフジャッジでの注意点をのせておきます。しっかり守ってください。

- ・コールは大きな声で行ってください。アウトまたはフォールトのときは、コールするとともにハンドシグナル(手をあげること)をしてください。対戦相手にしっかり伝わるようにしましょう。
- ・サービスの前に、サーバーが必ず大きな声でカウントをコールしてください。
- ・ボールの落下点は最後まで確認し、責任あるジャッジをしてください。
- ・コートチェンジ時には、両方で確認し、スコアボード(または審判用紙)にスコアを入れてください。

* 本年度の三重県テニス協会の中学生の大会(個人戦)については、全てセルフジャッジを基本として行っていきたいと思っています。セルフジャッジがきちんとできることが試合への参加条件となることを生徒に伝えていただき、あわせて指導の方をよろしくお願いします。

☆S. C. U(ソロ・チェア・アンパイア)方式について☆

一人の審判で常に正しいジャッジをするのは難しいものです。そこでセルフジャッジと一人の審判が協力して正しくジャッジをしていこうというのがこの方式です。詳しくは、

- ・選手は、「アウト」、「フォールト」、「(サービスの)レット」の3つのみをコールする。アウトやフォールトのときは、コールとともにハンドシグナル(手をあげること)をする。
- ・審判は、その他の全てのジャッジ、コールを行う。従ってカウントは審判がコールする。
- ・選手の「アウト」や「フォールト」のコールが審判から見て明らかに間違いであると判断できたときには、審判はオーバールール(訂正)をする。その際、オーバールールをされた選手が失点となる。
- ・選手が明らかなアウト(またはフォールト)のボールをそのまま返球したとき、審判は選手に代わって「アウト(またはフォールト)」をコールする。
- ・サービスがネットにふれたときには審判が「ネット」といい、その後、選手は「レット」か「フォールト」をコールする。
- ・審判が「ネット」をコールしないのに、誤って選手が「(サービスの)レット」をコールしたときは、プレーが続きポイントが終了した場合、そのポイントは成立する。そのコールによってプレーが停止された場合は、コールした選手の失点となる。そのコールに審判が同意した場合は、サービスのレット(やり直し)となる。
- ・審判は、審判用紙の記入を行う。(記入の仕方は、別紙参照)

審判は、試合の進行をスムーズにするためにいます。しかし、現実には審判がしっかりジャッジできないために試合の流れが悪くなったり、試合の結果そのものが変わってしまうこともあります。各校顧問の先生は、選手が気持ちよくプレーできるためにも、セルフジャッジとS. C. U方式の違いを説明し、生徒への指導を徹底してお願いします。東海大会の団体戦では、このS. C. U方式を採用しています。